

それは、未来へと続く希望の物語だ

北野小学校長 丹羽 郁人

希望に満ちた春です。ここ、北野の地に吹く風も、差し込む光も、あたたかく、穏やかな、春爛漫。澄み切った青空に、校門に咲き誇る桜の花びらが舞います。

ドキドキします。そして、わくわくします。

令和四年四月六日、北野小学校は、新一年生一〇三名を迎え、児童数五百四十二名で、三十八年目のスタートを切りました。

北野小学校は、今から三十八年前、一九八五年、昭和六十年にできました。新しい校舎が完成した様子を最初の卒業生の尾崎さんこう書いています。

できた！北野小学校

北野小六年 尾崎 真子

鉄こつが組まれた。

校舎のかげができた。

トントン、工事の音がする。

学校の外をぐるりと回って見た。

げんかんの階段さんが気に入った。

校舎のそばに立って見た。

ツーンと、とりょうのにおいがした。

運動場に入って見た。

とんでみた。ふんわりとべた。

走って見た。足あとがはっきりついた。

どの教室になるのだろう。

思っただけで、おねがドキドキさわぐ。

学校ができたとき、六年生になる。

学区民の願いと共に建てられた、希望に満ちた「学び舎」。

満開の桜の中、ちよっぴり緊張しながら、あふれんばかりの希望を胸に校門をくぐる子供たち。教室には自己紹介をする、弾んだ声が教室中に響き渡ります。

「ああ、この子たちと過ごす一年は、どんな一年になるのだろう。わくわくした気持ちで登校できる学校でありたいな。ほかほかした心で下校できる学校でありたいな。」

共に歩もう。共に、物語を紡ごう。

この子たちと紡ぐ物語は、

未来へと続く希望の物語だ。

(二〇二二・四・六)

